

不登校の子ども達のための牧場居場所づくり（covid19 変える）

2021 ひだまりファーム事業報告



【事業内容】

1.不登校児向け支援プログラム

(1)時期:2021年1月12日~2022年3月22日

(2)場所:蓼科ポニー牧場(長野県茅野市)

(3)対象:不登校児(10名/回)

(4)内容:乗馬体験、馬の世話、各イベントなど

【目的】

3月コロナ禍を受けて2020年春休みのキャンプが中止・近隣の小学校も休校となった。地域の困りごとに、居場所として牧場を開放する事業を無償で1ヵ月行ったが、ボランティアで関わりを持って頂ける保護者も出始め、大変有意義な時間となった。コロナ休業を経て、同年6月よりポニークラブ事業を再開したところ、長期の学校休校からの再開に躓いている子供が数名確認された。不登校児を抱えている家庭では、在宅がちになり、引きこもりのキッカケとなるリスクも感じた。私達の牧場では、30頭の大小様々な馬を繋養しており、馬の生活リズムで様々な作業が必須であり、学校に行けない子供達が、乗馬を体験し、馬の世話に関わる、人と関わることで自信を取り戻し、一人一人のペースで前に進むことを手伝い自立につなげる、安心していられる居場所作りを目的とする。

【実績】

実施回数:43回

参加者:345名 達成率:80%(345/430)

【団体役職員による評価】

当財団は50年余りにわたってポニー乗馬を取り入れた活動を行っている。子供達にとってポニーの存在は、乗りこなすチャレンジの大きな対象であると同時に、お世話をしなければならぬ弱い存在でもある。このことは人とポニー、人と人の間に複雑な関係性を生み、家庭や学校の生活では得られない成長の機会を提供する。本プログラムは、この特色を十分に生かすことのできるものであり、大きな効果があったと思う。

キャンプなど多くの事業の縮小・中止を余儀なくされたコロナ禍は当財団にとっても大きな危機である。しかし、この助成を得て不登校児のための居場所作りの取り組みができたことは、新たな社会貢献のあり方、事業展開を見いだすきっかけとなり、大変感謝している。

(事務局長 金山竜也)

【担当職員による評価】

実施して感じたのは、不登校の子供達が、日常の中で感じているよりも多くいて、本プログラムで私達が関わった子供達は、氷山の一角であろうこと。外出できる不登校の子供達と関わりを持った期間であったが、外に出られない子供も多くいるであろうことが推察される為、そこに対するアプローチも出来たら、より意義のある活動になるのではないかと感じた期間でもあった。新規の参加者を発掘していくための努力は、今後必要であると感じた。また、これまでも子供との関わりを持つ事業を継続的に実施してきたが、不登校の子供達は、今まで関わった子供達ともまた異なり、関わりを難しく感じる瞬間もあれば、それが楽しくもあった。そんな関わりが、牧場職員にとっても、子供との関わりを考える良いキッカケにもなり、職員の経験値アップ、スキルアップにもつながった。

(蓼科ポニー牧場 浜島彬祥)

